



発行・京都障害者スポーツ振興会

題字 芝田 徳造

特集 国体に出場しませんか

新潟ときめき大会に参加して

京都府立舞鶴養護学校 高等部2年 浅田 竜弥

僕は、「優勝したろう」という気持ちで全国大会に行きました。一生に一度しか出られない大会なので、すごくうれしかったです。

練習会では、丹波や太陽が丘に何度も行きました。みんなと最後まで頑張りました。なんと最後まで頑張りました。アキコは五投で、調子が悪かったです。九投や十投入りました。デイスはスタンスは六十二メートルも飛びました。一番よい記録でした。飛ばすことができませんでした。でも、十月四日の全京都の大会で、友達に負けました。僕は、「これでは全国では勝てない」と思って練習に励みました。全国大会中の調子はまずまずでした。二日目の練習の時、アキコは二回とも二十投入りました。デイス

ダンスを始める時に、強風でなかなかにいい記録が出ませんでした。自分より遠くへ投げている人もいました。「負けるんじゃないか」というほうの気持ちが高まりました。練習は疲れを食べた楽しかった。明日も頑張ろうと思いましたが、

大会本番。僕の気持ちいい勝負。八人で投中八入り。僕は十投中八入り。他の人は八投中八入り。飛ばすことができませんでした。でも、十月四日の全京都の大会で、友達に負けました。僕は、「これでは全国では勝てない」と思って練習に励みました。全国大会中の調子はまずまずでした。二日目の練習の時、アキコは二回とも二十投入りました。デイス

果は三位で銅メダルだった。僕は、もう頑張りたいです。次に行く人は頑張りたいです。

陸上競技伴走者 坂口 貴哉

私は伴走の経験はなく、未経験でしたが、大会を終えて、生活の中で味わえます。日常生活の中で味わえます。日常生活の中で味わえます。

中島徹さんと初めてお会いしました。6月の初旬で、初の対面。どのようでしたか。練習の回数が増す度に、お互いに打ち解けることができました。

中島さんは、かき一生懸命に練習されています。私も一緒に練習したいです。練習の回数が増す度に、お互いに打ち解けることができました。

一分近く縮め、自ら打ち立てた。私は自分のこと、中島さんに心から喜びを感じた。中島さんに心から喜びを感じた。

新潟大会では、レーシング中盤、ありました。皆さんの熱い応援に後押しされました。記録を更新し、届かずに思っていました。

大会までの五ヶ月間は練習や大会を通し、選手、役員をはじめ、皆さんとも仲良く、和気あいあいな雰囲気の中、目標に向かって頑張りました。

最後にありがとうございました。お世話になりました。心から感謝致します。ありがとうございました。心から感謝致します。

行事予定	11月	10(火)	丹波障害者スポーツのつどい	丹波自然運動公園	来月の
		15(日)	216回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	
		22(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	つどいは
		23(祝、月)	乙訓障害者スポーツのつどい	向日市民体育館	
		29(日)	第20回全京都車いすハンドボール大会	京都市障害者スポーツセンター	
	12月	4(金)	第5回京都市精神障害者バレーボール大会	京都市体育館	12 / 13
		6(日)	第18回ふれあい卓球バレー大会	京都市障害者スポーツセンター	
		8(火)	丹波障害者スポーツのつどい	丹波自然運動公園	
	車椅子ハンドボール審判講習会 ④11/14,⑤11/21,⑥11/28(いずれも土曜日)				第2日曜日
	京都府障害者スポーツ指導者研修会①11/28,②12/5,③12/12(いずれも土曜日)				
京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010 http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (2009年10月25日に一部更新)					

スポ振ルネサンス

「心でつなく活動を！」

京都障害者スポーツ振興会

副会長 水谷 裕

10月10日(土)から12日(月)にかけて、新潟県において開催された「第9回全国障害者スポーツ大会(トキめき新潟大会)」に、京都府からは21名、京都市からは25名の選手が出場しました。

大会本番で最高のパフォーマンスが出せるようにと、約半年間精一杯練習を重ねて大会に挑んだそれらガンパッテ来た選手に対して、今回はきちんと応えられていたのでしようか？

大会期間中、ずっと京都で「今年は何の問題もなく無事大会を終えて戻って来てくれるように」と思いをはせていました。

しかし、若干残っていた不安が当たったというか、振興会の留守を守るものとして残念なことが聞えてきました。

私が実際に大会を見に行きそれらの場にいた訳ではないので詳細は分かりませんが、行った人の情報(天の声)では、いくつかの振興会派遣スタッフに関する問題点が明らかにありました。

ここで挙げることは、府の選手団に所属するスタッフ、市の選手団に所属するスタッフに問わず、振興会全体として考えて欲しいことなので、あえて、府のコーチ、市のコーチという表現はしませんが、

心当たりのある振興会スタッフは、今一度原点を振り返り「誰のために、何のために活動をしたいのか」再認識をして欲しいと思うものです。

その1:開会式の時、雨が降ることを予測できたにもかかわらず、対応策をとっていないこと。

これは、一口でいうと、「障害のある選手に対する思いやりと配慮の欠如」といえるのではないのでしょうか。

他府県の選手団が何らかの方法で対処していたというのに、毎回ついていっている振興会のスタッフ誰一人、こんな基本的なことに対処できないのは悲しいことです。

その2:重い障害のある選手に、複数の担当スタッフがいていながら、私的に応援に来ていた施設職員に一部介助を委ねていたこと。

これは、一口でいうと、「責任の欠如」といえるのではないのでしょうか。

いくらか、いつも身近にいてその人の世話に慣れているといつても選手団の一員ではないのです。派遣期間中の選手の話は、スタッフが責任を持つて行う事柄であるのです。

その3:ある競技会場で、一方の選手団の3名の選手に複数のスタッフがいていながら、2人の選手に片寄って付き残された選手にも一方の選手団のユニホームを着たスタッフが傍に付いていたこと。

これは、一口でいうと、「自分の所属する府県代表選手団の一員としての意識と責任の欠如」といえるのではないのでしょうか。

いつも府・市の選手を協力して練習していることが逆効果となり、自らの所属意識等が薄れていた結果と言えます。

その4:ある競技会場で選手が競技をしている様子から、半年間の練習で何を指導していたか疑わざるを得ないものがあつたこと。

これは、一口でいうと、「競技指導力の欠如」といえるのではないのでしょうか。

こどもに対して行うような指導をして来たように見えたといえますから、障害のある人々の行うスポーツを軽く見ただけで対応してされてきたのですかね。

その5:ある競技で現地にいて誤った競技方法を教え、選手を失格にミスリードしたこと。

これは、一口でいうと、「障害のある人々のための競技知識と責任感の欠如」といえるのではないのでしょうか。

決してあつてはならないことと、誤った指導を受けて失格となつた選手にとつては、悔やんでも悔やみきれないことなのはいまでもなく、謝罪されても取り返しはつきません。十分な知識を持つてな

する選手を指導するなんてものほかなのです。このようなことを再発させないためには、現在以上に全員の練習会、本番などでの役員・コーチの果たすべき仕事、役割の再認識、再構築はもとより、障害のある人のことからスポーツレベルまで再学習させる必要であると考えます。

平成21年 11月22日(日)
平成22年 12月20日(日)
平成22年 1月24日(日)
平成22年 2月28日(日)
平成22年 3月28日(日)
12月のみ第3日曜日、以外は第4日曜日
いずれも 13:30 ~ 16:00
で開催してまいります。

活動内容は、音楽に合わせて身体を動かし、みんなで歩いたり走ったり、また、仲間同士ゲームなどを行っています。その他、卓球やランポリンなどもご利用いただき、心地よい汗をかいていただいています。

このような身体を動かすことのほか、今年度に入ってから、簡単な絵画や工作などで楽しんでいきます。

来年度には300回を数えます。是非一度お立ち寄りいただき、つどいを通じて仲間の輪を広げましょう!!

また、一緒に活動いただけるボランティアも大歓迎です。一度足を運んでみて下さい!!

場所 京都府立心身障害者福祉センター体育館
サン・アビリティーズ城陽
〒610-0113 城陽市中原
Tel & Fax 0774 53 6644

「城陽・障害者スポーツのつどい」
平成21年度 11月以降の
日程等のお知らせ
今年10月で、290回を数えた「城陽・障害者スポーツのつどい」
今年度11月以降の日程は次のとおりです。

当日受付です。お気軽にご参加下さい。
運動しやすい服装と上履きを忘れずに持参願います。